

F三 祥月命日靈祭

これの○○家の社にお鎮まり下さいます故○○○○大人之靈の御前に天理教○○分教会長○○○○慎んで申し上げます

あわれ汝大人は平成○年のこの月この日 齡六十二歳というをこの世の限りとして ゆくりなくも俄に出直されましたことは思えばやはり淋しく名残惜しい限りでございます

さはあれ人間というは身の内かしもものかりものなれば 生きるも出直すも親神様の妙なる御支配であり むしろなってくる一切は大難は小難であり 更には又後に続く一同の成人を望まれる上からの深く温かい親心現れであって 必ずふしから芽が出るとも仰せ頂いております

汝大人はこれの○○家の長男として御両親への孝心はもとより兄弟の上にも何かと心砕きつゝ、その上親戚の一人々々への誠を捧げながら炎熱の夏も酷寒の冬も厭わず 朝は早くから夜は遅く迄 己が務めを十二分に果たされました その長の年月を偲び 改めて現世にありし頃の笑顔脳裏に浮かべつゝ、一同と共に厚く厚く感謝申し上げますと存じます

茲に家族親しき人々と共に只今心を籠めて かくの如く祥月命日の並びに秋の靈祭をつとめさせて頂いた眞実を充分にお受け取り下さいまして これの○○家につながる子達孫達の先々に至るまで一層の陽気ぐらしの実が見え これの周辺により広くより大きく神名の流れて参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます